

大吉買山地記

七六年
(後漢・建初元年)

碑法帖拾遺⑬

木雞室

木雞室
伊藤 滋

大吉買山地記整拓本



吳榮光等の観記



漢代の文字の中でも一番大きく、字径が二十センチ余りである。『開通褒斜道刻石』に後ること十年、ほぼ同時代の書である。この『買山地記』の方が『開通褒斜道刻石』に比べて筆の抑

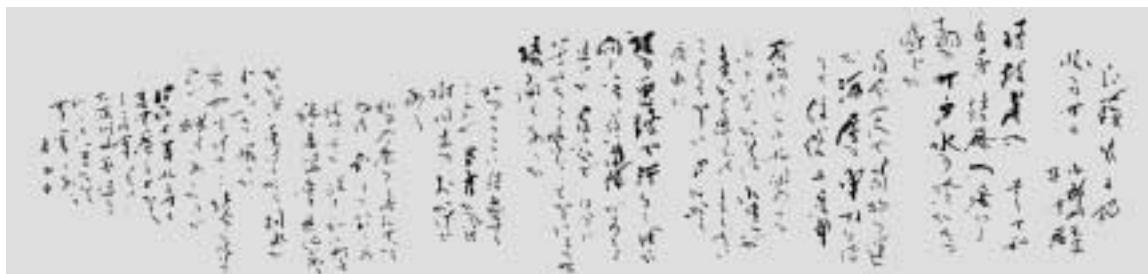
揚が見られ、茫洋とした趣の中に力強さが感じられる。大きい自然岩山の一部に、山地を買ったときの記録を刻したものである。本文は五行からなり、各行四字。本文の中央上部に同じ書風

で「大吉」の二字がある。今回は1月号なので、この「大吉」の二字を大きく示した。清末の金石家・吳榮光等がこの摩崖刻石を訪ねたことを示す道光3年(1823)の観記が右横に刻

されている。以前、上海の友人に此の刻石の所在を確認してもらった折の写真には、現在のような保護の建物はなかった。



書道藝術院 平成の書(2009)



「晴彼岸入そして私自身結庵…」(種田山頭火)

60×240cm



尾形 鼎山

財団法人書道藝術院
理事

いま書きたいと思っているものを書く、書をはじめた時からですが、枚数も書いて2・3枚、それは書けばはじめの構想もくずれ新鮮味に欠けるからです。一枚の作品に全身全霊打ち込むですから、神経も集中力もだんだんと欠如して行くからです。

以前は詩集をめくり直書きていましたが、近年は1cm角位に詩文を書いて書いております。77才にして眼も劣えて来て誤字、脱字が多くなったから

大内先生は月一回位の割で泊られておりましたが、お会いした時はいつも書の話ばかりでした。恩師なのですが

人間味あふれる先生で、キャバレーに行つても書の話で、辺りの方達の鑑定(げんてう)をかう程でした。魯邦先生にお会いするのが楽しく貴重な本も頂くなど今まで重用しております。

翠柳先生には生活を共に過し、書一途な先生で、大作を書く時は墨をすり助手もつとめておりました。「尾形先生の墨は伸びる」が口ぐせでした。

お二人の先生は一言も書のことについて言われたことはありませんでした。三人の先生との出会いでしたが月謝無料のお茶だけは身につかずでした。

です。

謹賀新年

平成 21 年 元 旦
財書道芸術院 役員一同



牛のよう

に

急がず

あせらず

歩く

大地を

踏みしめて歩く

情熱を秘めて

黙々と歩く

牛のように

逞しく

歩く

書のひろば

理事長 恩地春洋

毎日書道会の事業と日程									
—第61回毎日書道展ほか—									
助毎日書道会62回理事会で、平成21年度の毎日書道会の事業計画が決定された（主要なものを略記）。									
△日 程									
2・2～3 運営委員会									
4・16 事務局合同会議									
5・11～13 一般公募（会友公募）U23受付									
5・21～24 審査員総会 同									
6・26～28 一般公募 鑑別 文部科学大臣賞選考 同									
7・1～12 会員賞 選考 同 13:00 表彰式 グランプリ・アワード発表 祝賀会									
東京展 [東京都美術館] 前期展 7・8～8(水)～7・11(土) 後期展 7・13(月)～7・17(金) [国立新美術館]									
前期 I 7・8(水)～7・13(月) 前期 II 7・15(水)～7・20(月) 後期 I 7・22(水)～7・27(月) 後期 II 7・29(水)～8・2(日)									
漢字 西林乘宣 大字 小伏小扇 刻字 鳥山岳風 前衛 板垣洞仙 (以上院関係)									
△第61回毎日書道展役員人事									
・実行委員長 貞政少登 (総務) 仲川恭司 (審査) 船本芳雲 (陳列) 辻元大雲 各部長									
・北陸展実行委員長 浜谷芳仙									
・運営委員									

関西展

8・5(水)～8・9(日)
〔京都市美術館本館・別館・日
図デザイン博館〕

○名譽会員 香川倫子
○参与会員 長井四枝

○審査会員昇格
か木村東舟 近大平邑峰

大前田龍雲 前平岡千香子
(以上院関係)

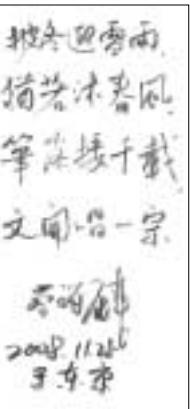
○名譽会員 香川倫子
○参与会員 長井四枝
○審査会員昇格
寺田健一
・顧問
・団長 恩地春洋 副団長 菅野清峯
・秘書 井上脩身
・会員登録 田上知枝
・指揮 清原憲治 (青豊高) 石原裕子
(松山女子高) 倉林智子 (波川女子高) 倉林智子 (波川女子高) 早川道子 (幕張總合高)
・実行委員会
・審査 9・25～27 同右
・審査会 H22.2.2～27
・表彰式 2・7(日) 大阪本社
・実行委員長 吉田成堂
・同副辻元大雲 (審) 嵐城大抽
・審査会 石井明子 砂本杏花 浜田尚川 (以上院関係)
生徒 綿貫智子 (波川女子高) ら
20名

勝校の指導者と、大賞受賞者らが訪中した。日中平和友好条約締結30周年記念・日中青少年友好交流年の閉幕式へ参加した。日本と中国の政府間の行事である。書の交流も含めて青少年の代表としての務めを果たしてきた。

△代表団▽

中国書法家協会女流書家代表団

副團長として来日した蔡祥麟先生



中国書法家協会女流書家代表団
副團長として来日した蔡祥麟先生

現代詩文書（四）

尾形澄神



現代の俳句と書の世界（2007年）尾形澄神書 34×68cm

「落葉したつるつるの幹撫でにけり 加藤れい句」俳句をやっている伯母の句を書いた。かなり計算して書いていますが、最初から頭の中にあった構成は「つるゝゝの」までで、後は流れに任せて筆を運んだ。

現代の俳句と書の世界（2007年）尾形澄神書 34×68cm
「落葉したつるつるの幹撫でにけり 加藤れい句」俳句をやっている伯母の句を書いた。かなり計算して書いていますが、最初から頭の中にあった構成は「つるゝゝの」までで、後は流れに任せて筆を運んだ。

私たちは日常的に「線を引く」という言葉をよく使います。ところが古典を広く見渡してみると、線は決して引くだけではないことがわかつてきます。

一つ例を上げると、顔真卿の書には突く線が多く出てきます。顔の書法は引く線を少なくして、突く運動を主体

としています。突くからは、自然と落筆が高くなります。そのため線質は深く、スケールが大きくなるのです。争座位文稿が、うねるような熱情的な筆意を感しているのは、顔法が遺憾なく発揮されているからです。

突く、ひねる、ねじる、突き上げる、叩きつける、押し出す、はじき出すなど、いろんな筆遣いが欲しいのです。「線を引く」という意識があまりにも強すぎると、運筆のリズムがどうしても単調になってしまします。書に限らず、芸術において単調ほど恐ろしいものはないのです。単調な線は観る人を飽きさせます。言い換えれば『單調を打ち破る』ことです。このことをわかって筆を持つのと、ただ漫然と書くのとでは、大きな差が出てきます。

バイオリンを弾くように運筆できたら、線は美しい響きを発するかも知れません。でも、打楽器的な筆遣いも必要なのです。作品寸法や書く文字が大きくなり、それに比例して、用筆の多様性が求められます。

漢字（四）

大内熒軒

21世紀の書

—私の主張—



25×33cm

今回は、呼吸について考えてみたいと思います。私たちは生きるために毎日呼吸していますが、他にはどんな役割があるのでしょうか。

呼吸を意識する動きとして、ヨガやスポーツを思い浮かべました。ヨガは、呼吸法がとても大切で、「呼吸を操る」ことにあります。野球、ゴルフ、相撲では、より心と体を一体化させるようです。

呼吸を意識する動きとして、ヨガやスポーツを思い浮かべました。ヨガは、呼吸法がとても大切で、「呼吸を操る」ことにあります。野球、ゴルフ、相撲では、

呼吸を意識する動きとして、ヨガやスポーツを思い浮かべました。ヨガは、呼吸法がとても大切で、「呼吸を操る」ことにあります。野球、ゴルフ、相撲では、呼吸を意識する動きとして、ヨガやスポーツを思い浮かべました。ヨガは、呼吸法がとても大切で、「呼吸を操る」ことにあります。野球、ゴルフ、相撲では、

どんなときに息を止め、その時どのくらい息を体にためているのか。これも勝負する人にとってはポイントでしょう。

続いて、私たちの書ですが、たとえば線を太く長く強く書く時、優しく軽く書く時、また息を吸って止めた時、吐いて止めた時、線を書くリズムは違うはずです。特に大きな紙に大きな字を書くときは、体全体を使い、大きな筆で紙の上を駆け回るので、呼吸の役割は大事だと思います。作品が半切や半紙であっても同じです。リズムを変えることで違った作品に仕上がるのではないかでしょうか。

「阿吽の呼吸」という言葉がありますが、書も作家、筆、紙、墨などお互いの関係（気持ち）が重要です。

作品を鑑賞するとき、作者の息遣いを感じるために、呼吸を意識して見ると何か

発見があるかも知れません。今回の作品は、たっぷり息を吸って「忘」、いろいろ折り混ぜながら「機」を

書いてみました。
大きい作品も小さな作品も体でリズムをとって書きたいと思っています。

日本人ブラジル移住100周年記念
現代日本の書代表作家サンパウロ展
2008年10月14日～11月9日 サンパウロ美術館

〈馬耳東風〉



香川峰雲

〈物故〉
1973
年

32.5×23.5cm

〈鶴のイメージ（鶴による）〉



恩地春洋

120×68cm

〈物故〉 1950年



〈草上〉

大澤雅休
32.5cm×132cm

〈跳るよ筆〉

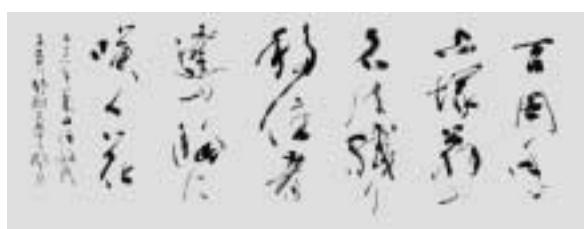


種谷扇舟

〈物故〉
1995
年

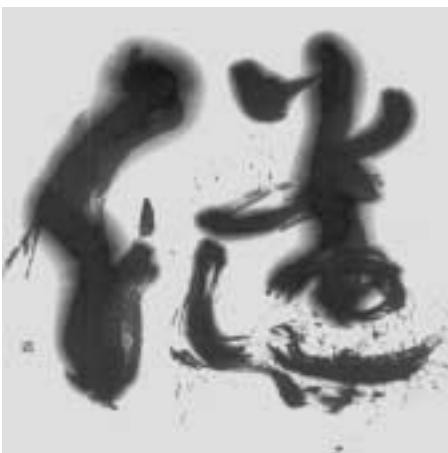
135×65.5cm

〈百周年〉



辻元大雲 63×164cm

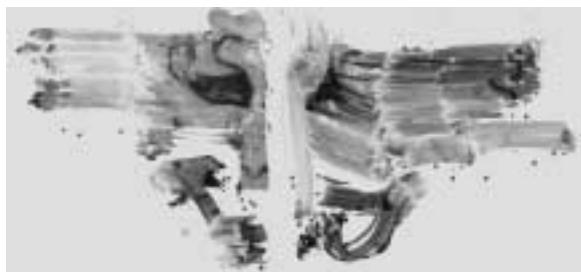
〈継（つぐ）〉



120×120cm

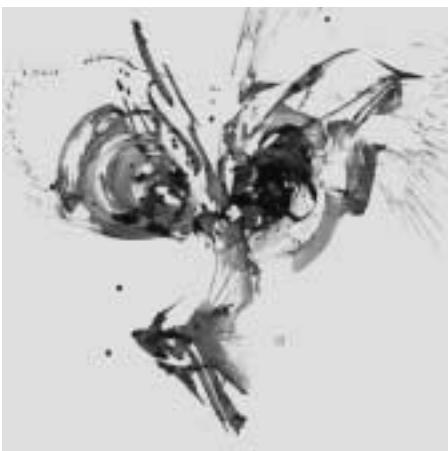
大野祥雲

〈念〉



浜谷芳仙 83×174cm

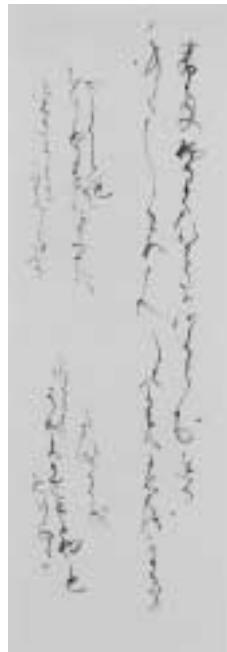
〈銀河〉



118.5×118.5cm

千葉蒼玄

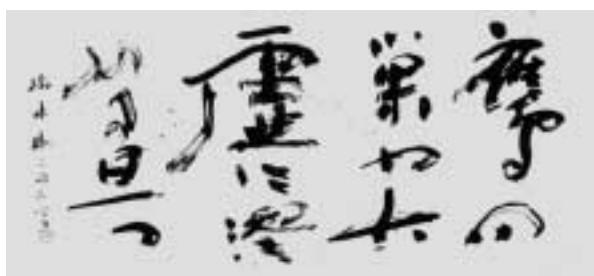
〈桜花〉



174×70cm

下谷洋子

〈鶴一の句〉



小竹石雲 84×174cm

ブラジルの移民の歴史を辿ってみると苦難の連続だったようだが、現在4世5世の時代になると、ブラジルに根を下ろし大きく開花している。
書道芸術院からも恩地理事長以下11人の団を率いて参加した。会場のサンパウロ美術館は古典から現代アートまで有名な作品が並ぶ会場で、書道展が開催されたことはサンパウロ市民にとっても日本の書道を知る意味で大きな契機となつたことだろう。（蒼玄）

書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

平成20年11月23日(日・祝)
於 上野精養軒

碑法帖入門 「蘭亭序を中心として」

講師 木雞室 伊藤 滋 先生

△公開講演会△

常務理事 辻元大雲

講師

伊藤 滋 先生



恒例となった本院創立記念日特別講演会は上野精養軒にて11月23日(日)、講師に拓本研究・蒐集家の第一人者として著名な伊藤滋先生をお招きして「碑法帖入門」「蘭亭序を中心として」と題して行われた。

当日午前中は財団法人書道芸術院の理事・評議員会が開催され、本年度諸行事の遂行状況、財団発足以来初めての神田税務署の査察状況の報告(特に重大な指摘はなし)、2年後に迫った東京都美術館改修に伴う本展及び学生展の運営方法と会場問題、更に公益法人新体制への移行問題、単位認定講習

会講師の決定などにつき審議が行われた。

午後1時半より精養軒2階会場にて開催された講演会は、事前申し込み段階で収容数を超えてお断りする状態で、まさに超満員の盛況ぶりであった。会場前方の机上に、伊藤先生秘蔵の各種蘭亭序精拓が露出陳列され、講演前からじっくり鑑賞させていただく。本院発行の月刊競書雑誌「書道芸術」巻頭を飾っていたとき早や2年余となり、会員諸氏にはなじみの先生だけに、講演会の人気はいやすにも高まるわけである。

余談になるが、伊藤先生と私は東京学芸大学書道科の同窓である由縁から日ごろ親しくお付き合いいただいており、院関係のなかにも同窓の方がおられることも心強いことであった。

講演会の中身としてはタイトルにある通り、碑法帖入門という初步的な導入をふまえ、先生の高い見識と研究に



「蘭亭序」を見入る聴講生

裏打ちされた内容で、蘭亭序を中心として碑法帖の具体的な文字や微細な字形の変化を見落とさない見方、見極め方をお話しいただいた。特にパソコンを駆使してスクリーンに映写された蘭亭序の諸相を、時に拡大し、また縮小し細部を比較検討するお話は、きわめて具体的でわかりやすかつたと思う。用意された講演レジュメは先生の近著「墨法帖名拓選 王羲之蘭亭序」(芸術新聞社刊)の論考をそのままお借りして印刷、配布され、わかりやすい資料であった。蘭亭序の成立から、唐太宗皇帝の世を経て膨大な種類の蘭亭序が生まれる契機、俗に八〇〇蘭亭といわれる多種多様な刻本や臨模・掲書類・それらを系統的に整理し比較検討する。微かな違いを見逃さずに、いずれが佳品、真筆に近いかを研究する。大変気を遣う作業である。

本年は江戸東京博物館「北京故宮博物院 書の名蹟展」で馮承素「神龍半

う。

最後に先生著書のあとがきより抜粋。

辻元常務理事よりお礼のあいさつ



「蘭亭序」は長きにわたって書の手本として学ばれてきた。そして今後も書道のある限り学ばれていくであろう。「蘭亭序」のもつ千年余の歴史がそれを物語っていると言えよう。（中略）法帖の中で「蘭亭序」のように様々な印本や摸本が伝来する例はあるだろうか。このことは歴代にわたって、「蘭亭序」が多くの人々に愛され、学ばれてきたことを物語っている。ならばこれら種々の「蘭亭序」は、王羲之以後の長い時代によって生み出されたものであり、各々の時代の人々の王羲之像ということができようか。現在、我々は種々様々の「蘭亭序」の中から書として優れたものを探し出し、我々なりの「蘭亭序」像を創り、書法創作の中に生かすべきであろう。

墨 法帖名拓選 王羲之蘭亭序

発行 芸術新聞社

伊藤 澄著

千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル4階

価格 2300円+税（送料別）

「開皇本蘭亭序」「神龍本蘭亭序」「定武本蘭亭序」「頃上本蘭亭序」「その他の諸本」と、名前は聞いたことがあるが詳しい内容や違いを理解しないわれわれにはまたとない学習の機会となつた。「宋拓」「明拓」などの取扱年代と優劣についての分析などは、まさに先生ならではの学識とたゆまぬ研究なくしては判断できぬことであろ

懇親会

千葉蒼玄

今年は蘭亭叙フィーバーで、江戸博でも台北の故宮でも蘭亭叙が展示されていた。蘭亭にちなんだ出版物や、講演会も多数開催されている。それにあ

やかたわけではないが、今年の講演会は伊藤滋先生の碑法帖のお話から、お持ちの拓本、それにまつわる、逸話など普段はあまり聞かれないお話を聞くことができた。（詳しくは辻元先生の文を）

祝賀会では恩地春洋理事長の挨拶に始まり、香川倫子先生の乾杯、引き続い、各総局支局長より来年の行事予定などが紹介された。南関東総局長板垣

先生からは来年の単位認定講習が千葉成田で開催されるのではないか参加していただきたいとの熱いご案内があった。再来年は四国、大野祥雲先生の指揮のもと高知で開催される予定である。

また、恩地先生より今年10月に開催された銀座での個展のお話を継ぎ、来年は「四季の抒情」と題された、辻元大雲先生の大々的な個展が開催される旨の発表があった。書道芸術院の代表作家の一人でもある辻元先生の個展は、「院は作家集団である」という意志を書道界全体に発信するものである。今から心待ちにしている。折しも第62回書道芸術院の開催される時期であり、会員の皆様はお誘いあわせてご覧いただきたい。

和やかな中にも充実した懇親会は時間の過ぎるのも忘れるほどで、書道芸術院の仲間としての团结を確かめ合うことができた。また来年、会えることを祈念し閉会となつた。

（昨年の講演会後の報告記事の
為、一部そのまま掲載して
あります。（今年・来年））



香川理事乾杯のご発声

用紙 半紙普通判

注

漢字研究部競書作品は、

左の法帖の中から
○○臨

何文字臨書してもよい。

（掲載部分以外は不可）

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

○○臨

（押印のみも可）



〈解説〉
空海から最澄にあてた書状三通を一巻としたもの
である。第一通の書き出しに「風信雲書……」とある
ので風信帖と呼ばれている。

空海の書の基礎は、王羲之に置かれたには相違ない
が、入唐求法の際、かの地の新様式の書風の感化を
も受けてその完成された書の風味はかなり複雑なものになっているようである。

(編集部)

風信雲書。自天翔臨。披之閱之。如揭雲霧。兼惠止觀妙門。頂戴供養。

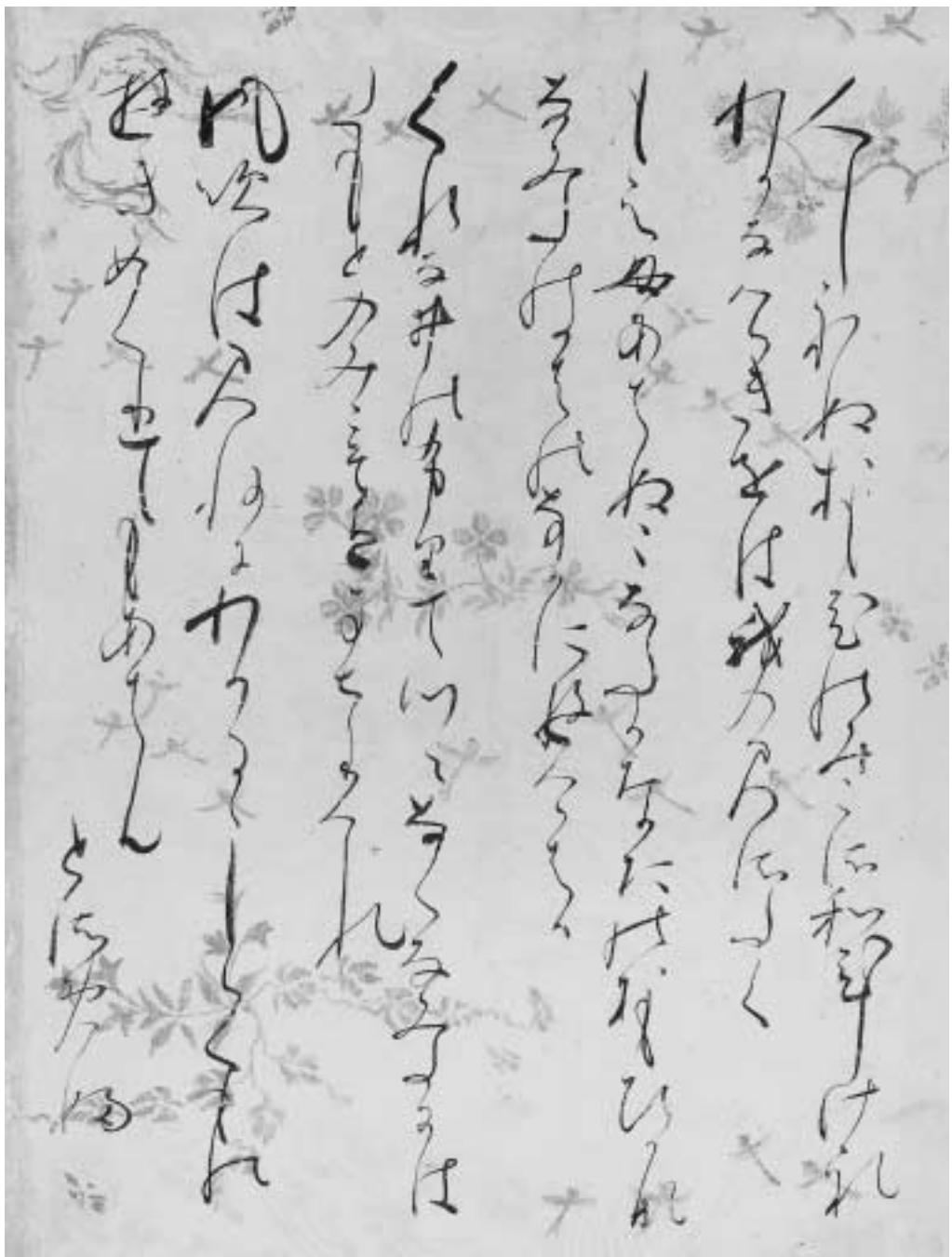
※左記の掲載歌一首以上を書く
(全幅も可)

用紙
・半紙普通判(料紙可)

<よみ>

※落款を必ず入れる。
署名、もしくは〇〇印
(押印のみも可)

(掲載写真縮小90%)



〈解説〉
石山切眞之集下は、金銀泥の下絵の中で、雁の飛行するV字型を押し広げた形の大膽な描写や、折れ枝、秋草などをやや大きめに描いている点などは、料紙の装飾技術が逸格で、その美しさは圧巻である。

豪華な料紙に合わせ自由に散らし書きがされ、肥瘦に富んだリズムが弾ける。定信の20代のころと推定される。

(編集部)

習い方解説 (四)

西林乘宣

花柳又春妍
(花柳また春妍)

花は赤く緑に、また春の景を美
しうした!『墨場必携』春類五字
の中から。

今回の6か月にわたる手本の揮
毫で「五体」を取り上げているの
は、とりもなおさず、皆さんにそ
れだけ勉強して頂きたいからだと
「先号」に認めましたが、もう一
つは、私自身高等学校(群馬県)
で42年間教壇に立ち、毎年五体に
ついて講義をし、また部活の生徒
を相手に筆を執ってきたからです。

展覧会では10年も20年も同じ行草、
わずかに詩文が変るだけという方
がいますが、いかがなものでしょ
うか。

さて、行書は楷書を書きながら
ほんの僅かな筆を次の画に続けるよ
うにすればよいのです。「三」な
ら第2画をハネるという考え方。

花柳 又春妍 よみ(花柳また春妍)

書体=自由



漢字規定秀級以下【二月十五日締めきり】用紙半紙普通判

依岡紫峰選書

習い方解説 (四)

依岡紫峰

氣新光照
(氣新に光照か)
王讀

新しい年を迎えて、氣清新にして、
光輝が明らかなさまを示していま
す。

今年は、皆様に佳い年であり、
ご繁栄の年でありますようにお祈
り申しあげます。



書体＝楷書

氣(氣) 新光照 よみ(氣新に光照か)

「氣」 鋒先で切りこむように、
「米」で安定感をつくる
「新」 静かな気持ちで運筆して
落ちついた雰囲気を
あかるく、さわやかさを
望みます
「光」 光照で、おちつきと明る
い作品に仕上げたい

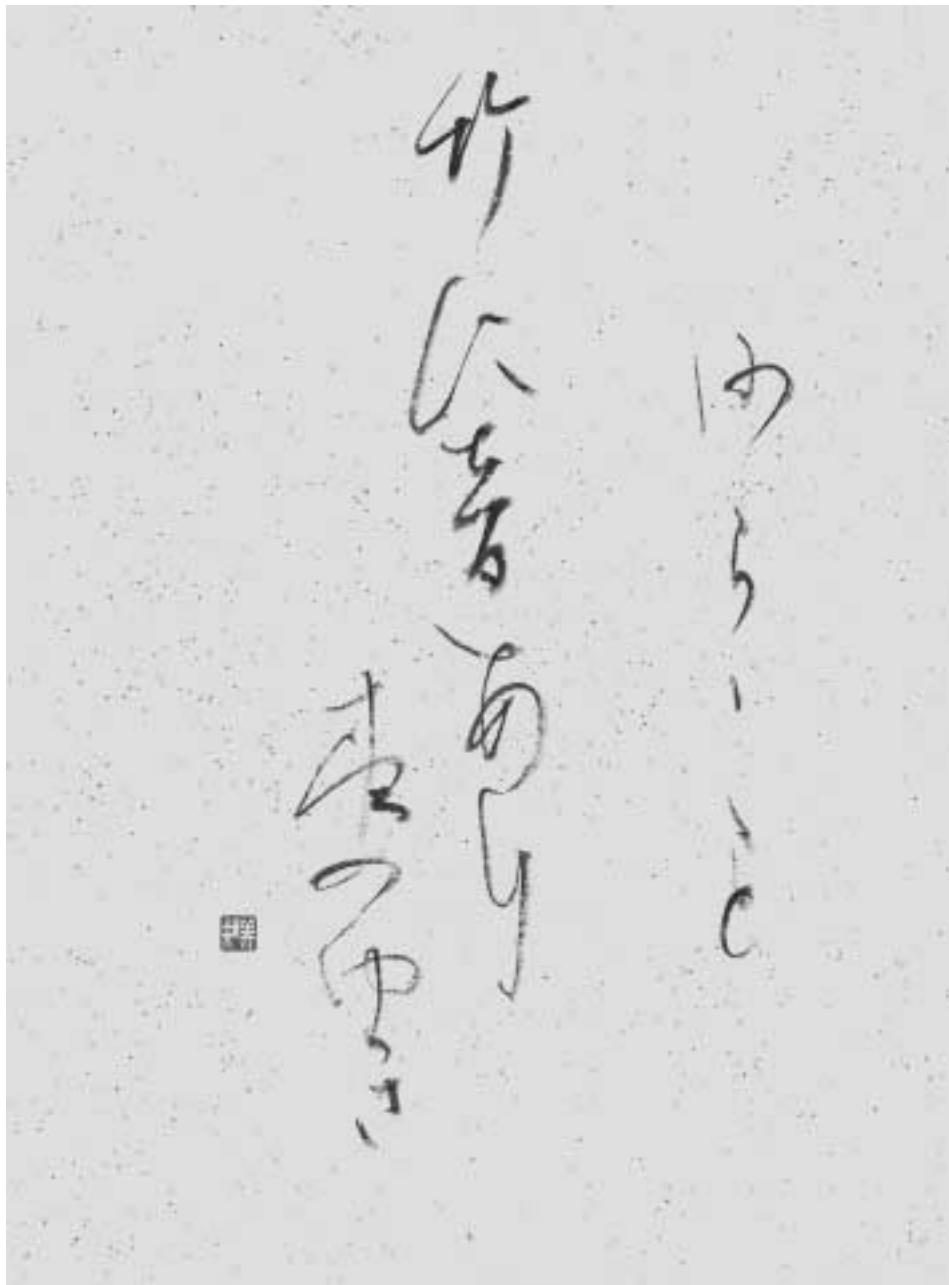
かな規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

山藤美知子選書

習い方解説 (四)

山藤美知子

さら／＼と竹に音あり夜の雪
(正岡子規)



創作

漢字を多くして作品を安定させました。俳句は字数が少ないので、その分自由に書いて、おもしろいです。いろいろに展開して、窮屈にならないよう表現して下さい。筆はいたち小筆を根本までおろしました。墨量が多くならぬよう注意しましょう。

よみ方 沙ら／＼と竹に音あり夜のゆき

かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)

さやけいづるさやけいづるさやけいづるさやけいづる

さやけいづるさやけいづるさやけいづるさやけいづる

よみ方 世中はいか(可)に(尔)く(久)ることお(於)もふらんハ
らのひとにうらみらるれば(者)

習い方解説 (一)

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

黒川江偉子選書

かはらぬ色を誰とかは見る
年といひて生ひそぶ竹のよよを経て

(紀貫之)

幾年を経ても変らぬ竹の、あの
色を誰の事と見よう、御長命な君
を描いてはない。

新しい年の始めの賀意を込めて選
びました。

運筆の速さやリズム、字の大小、

墨色の変化等心に留めながら書いてください。用字はいろいろに変えて、自分なりの景色を創るものか(質)は(者)らぬい(以)るを(越)た(多)れ(禮)とか(可)は(八)見む
よみ方 年ことに生ひそぶ竹のよよをへて

創作

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

習い方解説 (四)

小林琴水



書体=自由

静かに入って、川のたて画を思い切って書きましょう。二行目は落ち着いた雲間氣にまとめました。

南浦春來綠一川
(南浦春來綠一川 石橋朱塔兩依然
石橋朱塔兩つながら依然たり)

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

一谷春窓選書

習い方解説 (四)

一谷春窓



書体=自由

龍が雲を呼び虎が風を起こすように同士が呼応しあうこと。勇ましさと勢いを感じ今年も、このような勢いで物事に取り組みたいものです。新年、初おろしの羊毛の長鋒筆で書きました。古くなつても気に入りの筆は手離せませんが、時には変わった筆で書いて見るのも思っていない作品に出逢えるのです。筆は大切にしましょう。

雲龍風虎
(雲龍風虎)

習い方解説 (四)

安齋映心

淡い花は
母の色をしている
弱々と悲しみが混り合つた
温かな母の
色をしていろ 香林書

富弘さんの詩画の数々が私達に深い感動を与えるのは、不自由な体を乗り越えて、口先にくわえた絵筆の一筆一筆に託した心情が悲しいまでに伝わって来るからではないだらうか。

さらに素晴らしいのは、詩（文字）と絵とのバランス並びに余白（間合い）の生かし方にあると思う。同じことがペン字についても言えるのではないでしようか。

美しく感ずるペン字の書は、文字の線にあるのは勿論ですが、漢字とかなのバランス、行と行との間合い（余白）も大切です。また、練習するときは、文字はていねいに大きく正確に書きましょう。それが上達の原因になります。ペン先の一字一字にも、心を込めて書くようにしたいものですね。

※落款を入れ忘れないようにしてください。（落款は自分の名前を入れてください。）

用紙＝はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体＝自由

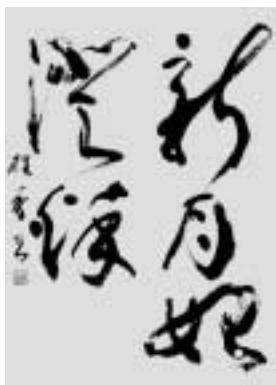
今月の

ホープ作品
各部総評 NO.570

漢字部 師範 佐藤 桂香

“書は線なり”というが、線の中でも強い線がよく鍛錬されています。線の書きを大切に精進を。（春洋評）

◎漢字部総評 書は線と造形によって書者の思想を表現する。線のリズムは心のリズム、字形もリズムによって形となる。（春洋評）

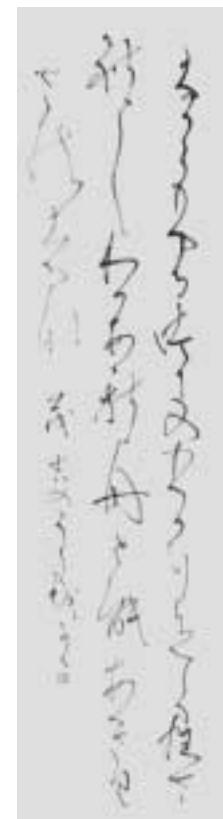


かな条幅部 準師 治田 芳江
かな条幅部 準師 治田 芳江
かな条幅部 準師 治田 芳江



◎かな条幅部総評 全般に落款を忘れた人が目立ち残念。無難にまとめて上手い作品が多いが、斬新さへの挑戦を期待する。（明子評）

漢字条幅部 師範 小野寺聿源
潤滑の変化を生かし、骨力ある表現。やや渴筆のスベリが気になりが通貫した流れにリズムあり。
◎漢字条幅部総評 上級二行表現安定作多し。筆力の弱い作も散見。下級一行も同じく基礎学習の鍛練が物を言う。（大雪評）



現代詩文書部 特選 中野 翠秋

大胆にして、大きなスケールの作、墨量の変化による文字（線）の書きぶりは大変見事である。（堂光評）

◎現代詩文書部総評 手慣れた表現が先行している作多い。文字に気持ちを入れてほしい。（堂光評）



前衛書部 特選 佐々木桂瑠

線の強さと躍動する動きがうまく一致し、全体を明るくしている。

◎前衛書部総評 多様な表現を全面に出した作品が多く見られ、今後が期待されます。（蓮紅評）



かな部 師範 守護 英子
紙に対して文字がやや小さいが、筆の弾力を生かした運筆の変化が適格でよい。今後が期待されます。

◎かな部総評 連綿はただダラダラと続けるのではなく、筆を強く当てたり突っ込む所が必要です。参考本をよく見ること。（洋子評）

やあやあ
あまくまく
もゆるりわらわらの
やあやあ
あまくまく
もゆるりわらわらの

ペン字部 師範 松山 清風

伸びのびとした用筆で無理なところがなく品格のよい作品となった。名前まで一貫して見事である。（明子評）

◎ペン字部総評 行書となると楷書と違い流れ過ぎの作品があった。行書でもしつかり止める所を考えて用筆する事が大切。（蒼玄評）

かな部 師範 守護 英子
紙に対して文字がやや小さいが、筆の弾力を生かした運筆の変化が適格でよい。今後が期待されます。

◎かな部総評 連綿はただダラダラと続けるのではなく、筆を強く当てたり突っ込む所が必要です。参考本をよく見ること。（洋子評）

神様がたた一度だけ
この腕を動かして下さると
したら母の肩をたたかせて
もらおう
花によせてより 清風書

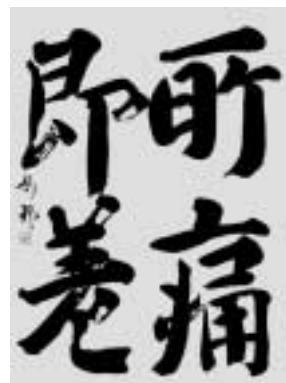
かな部 師範 守護 英子
紙に対して文字がやや小さいが、筆の弾力を生かした運筆の変化が適格でよい。今後が期待されます。

◎かな部総評 連綿はただダラダラと続けるのではなく、筆を強く当てたり突っ込む所が必要です。参考本をよく見ること。（洋子評）

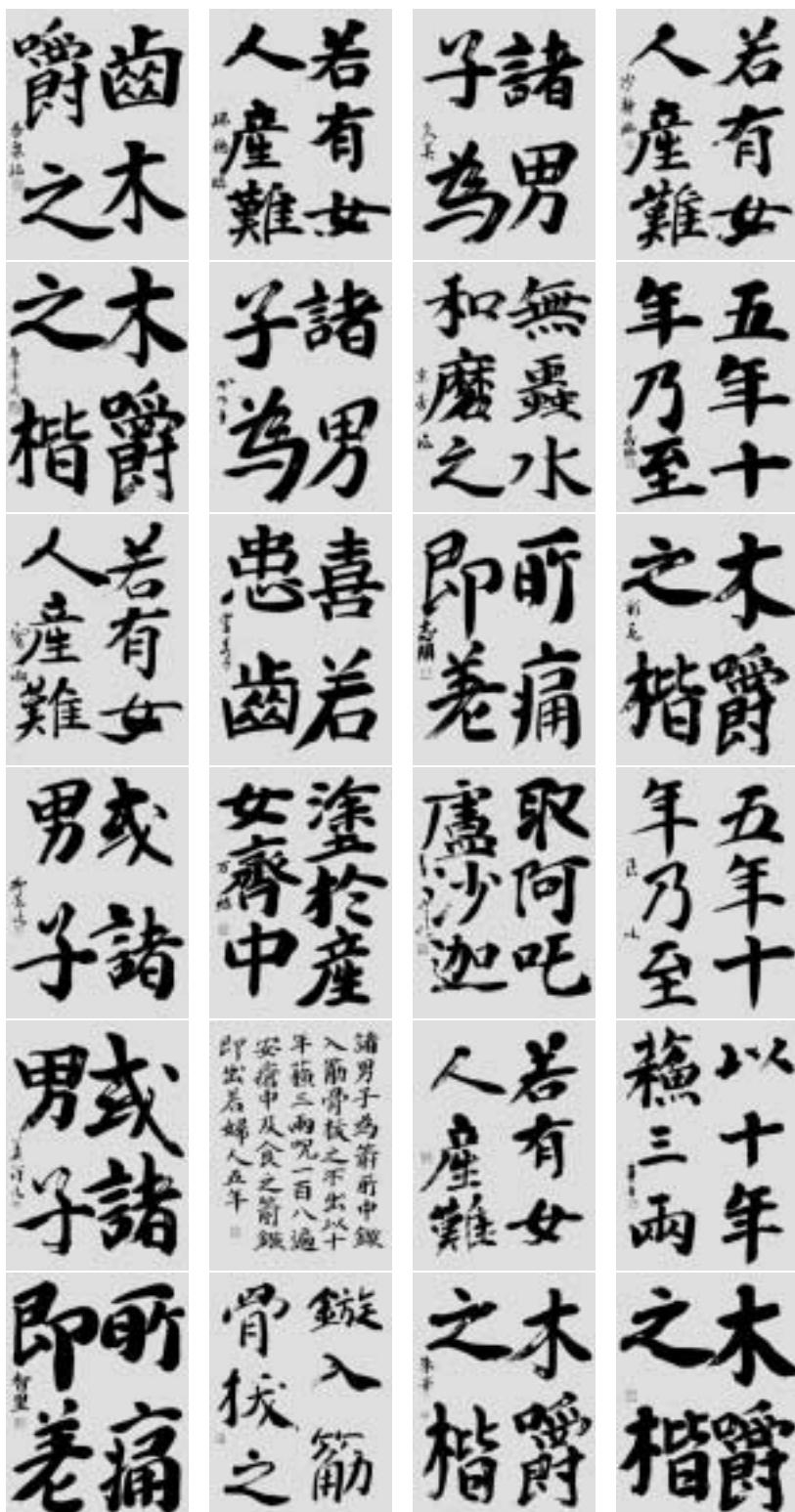
漢字研究部
(三十帖策子)

選評 西林乘宣

今月のホープ作品



齊藤妙邨



智華柳宥蒼香里祥苑雨香泉

僊綾万富か瑞結美つ
雨夏美子子穂

朱右青志京久
華真山朋芳美

蒼直良彩千代子
風子子苑子靜

漢字研究部 特選 齊藤 妙邨

およそ1500点の中から選ばれるということは、実力十分にしてかつ幸運。作品に目を通していると、原典(写真版)とはほど遠い人、ほぼそれに近い人、そしてそれを超える人となるが、本作品はその3番目である。見事な筆致と構成はまさしく他の範なり。

◎漢字研究部総評

今回の手本は「雁塔聖教序」や「鄭文公下

碑」とちがってやや拘みどころがない。それだけに出品された皆さんも苦労したと思う。でもこれも勉強の一つである。

なお、前回も述べたが、社内内どれもコピーしたかのように書いて大量出品するところがあるが、原典をみて、出品者ごとにそれぞれ異なった解釈、表現があつてもよいのではないか。つまり指導者の手本で統一しないということである。

かな研究部
(藍紙本万葉集)

選評 朝倉春江

今月のホープ作品

かな研究部
(藍紙本万葉集)
朝倉春江
選評 朝倉春江

村田笑華

◎かな研究部総評
偏、小さく旁、大きく、縦画、太く、横画、細く右
肩上りの特色を筆圧の強弱でよく表現できた。かな
ピチとした文字と文字の呼応が絶妙の秀作です。

かな研究部 特選 村田 笑華

紫み永
蘭よ舟

龍昌とし
蘭博

藤秋寿
象花子

みどり
芳子

大澄竜五高高
阪春泉葉葉秀
生池飯浅秋青會
駒田馬川木木
萩草紫久理勇
花溪苑江枝子介

澄前艸館高大大竜正土春広N八書藤竜も澄A書藤蘭五千
橋玄山真阪雲瑠華氣月島H街泉 泉く春！泉鼎葉菜
增碓小小岩河川後須石西宮熊坂齊坂高森西浪伊岡川都村
井森山上合西藤田橋澤川谷本藤口野田川藤部崎丸田
とし子蘭博とし子蘭博とし子蘭博とし子蘭博とし子蘭博
か笙都智瑞知香知瑠春紫み永舟子美蓮蘭藤秋寿照優ど笑華
秀弘り洋子雲子舟子美蓮蘭藤秋寿照優ど笑華

大雲佳
京生文硯
橋葉大水
朝倉作
吉森宮三松平日比春西西富德津田田鈴神生塩櫻齊後後北岸小内大植伊伊
田田澤鷗本山比田山澤岡田田中木保島澤田藤藤村田熊観樹村藤藤
多喜由富
佑陸加草敏陽彩湖代勝彩悦萩幸梢美智佳彩美龍良美喜欣東代幸皓美英良
爽陽子満秋子萩華舟子美峰子彩峯子翠枝広子舟紅貞子泉子子江泉子子佑

大艸八千秀
拙玄街葉水
入
荒新熟足青
木井田立木
孫靜紅万か
功江彩秀よ
治生八百皓
た千石東艸英戸高高筑大木帝生都生信広華秀英大大大安、大青玉桂秀も筑こ澄東土石艸千大千石も筑八生大こ卯
田大雲谷映か葉習小玄峰出陵真桜雲曜塚大賀大篤島祥水峰雲阪波、阪峰松月明く桜だ春縦気習玄都阪葉習く桜街大阪だ月
島島七穴重猿澤佐佐齊齊小小木小黒木君木北神川香門片梶貝小小大梅宇薄白牛植岩岩今犬伊伊石石池五新
本田條戸信裕
佳間
麻和裕谷宿童雙代節絹早千久美智竹幸等春利春行南祥信美絵窓久萩純泡彩輝喜藤一虹春春緋美如美惠梨道恵悦翠さ
子美禪子右鶴子子苗代恵紀子葉穂遊翠男峠子汀香子代苑萩美光子晨香峯代栄美祥綠乃石風子峯霞石子径子香米

秀蛭戸明北土青竜秀椿英春正澄皓干正書大京稻正春大秀青八秀方艸椿調土正己石千秀竜翠、竜紅清高大竜志春
選峰和出漢陸亞峰翠峰汀華春映葉華徑雲橋毛華汀阪水青薪水正玄翠布氣華未舟葉水泉柳、泉瑠雪陵阪泉引
伏外
152渡若吉吉吉山山山柳百子宮宮松松前堀堀細星藤藤福林羽花簾長橋野野永中内戸富士近竹高高千住角鈴鉢下志村
名辺菜田吉田本崎口堀木野野内田重岡田切川村野井井島成里野谷井山藤村澤谷池中山橋木歲吉倉木木
氏富千四洋美政代龍津愛幸映翠律幸幸魯貴佐晴智歌雙紅楓智智眞日蕙愛宏尚古博惠つ柳泉花雅合倫和育利朝代抱
名矩紀鶴子子葵子泉翠子峰枝美平華景子子雲春子枝子子鶴楓子子理和雅菜枝子塘舟子江芳蕙泉泉子子子夫子舟